

第3回クラブ交流会 議事録

日時: 2025年11月15日(土) 15:00~17:00 場所: 泉陽会館 2階

出席者: (敬称略)

- ・ **泉陽会役員:** 福井(会長)、木村(顧問)、伊藤(前会長)、大浜(広報委員)、林、柴田(組織委員)
- ・ **各クラブ代表者:** (水泳部)宮崎、福本、(卓球部)國澤、溝上、中井、(バスケットボール部)壺井、(茶道部)赤穂、辻村、(バレー部)安保、辻村、金牧、(サッカ一部)小嶋、岡崎、黒木、(ソフトボール部)和田、(語学部)佐々木、妻鹿、荒井
- ・ **司会:** 川端(泉陽会組織委員長),

1. 開会

定刻の15時、司会の川端により第3回クラブ交流会を開始

2. 開会の挨拶

福井泉陽会会長および木村顧問より挨拶

福井泉陽会会長あいさつ

・各クラブの代表の皆さんにご参加いただいたことに、まずは心から感謝したいとのことでした。ご自身もサッカ一部OB(18期)で、近畿大会に出場した思い出に軽く触れられました。

・校舎にずらりと並ぶタペストリーを見てもわかるように、運動部・文化部を問わず、現役生が本当に頑張っていることを、OB・OGとしてとても誇らしく感じているそうです。

・OB・OG会は、現役生のサポートだけでなく、会 자체がもっと元気になって、より強い組織になっていけたらという期待が語されました。

・いま「私学無償化」などの動きがある中で、公立高校が置かれている状況にも触れ、泉陽高校の魅力をこれからもっと積極的に発信していくことが大切だと話されました。

・そして、同窓会(泉陽会)と各クラブ OB・OG 会がしっかり連携して、みんなで母校の力になっていきたいという思いが示されました。

木村顧問(第 23 代校長)あいさつ

・第 1 回からずっと参加している立場として、この交流会がここまで発展してきた様子を見守ってきたことに触れ、本会への大きな期待を述べられました。

・文化部と運動部が一緒になって交流できるこのスタイルはとても特徴的で、価値のある取り組みだと高く評価されました。

・これまでの話し合いが、これから具体的な形として実っていくことを楽しみにしており、参加者の皆さん同士で、ぜひ自由に活発な意見交換をしてほしいと呼びかけられました。

3. 各クラブ OB/OG 会からの活動報告と課題共有

各クラブ代表者より、活動状況、運営上の課題、そして成功事例について多岐にわたる報告がなされました。

水泳部 宮崎氏

- ・ **現状:** 顧問の藤本先生による 8 年間の熱心な指導が実を結び、現役生がインターハイに出場するなど、非常に活発な活動を展開している。
- ・ **課題:** 約 50 年間活動を続けた OB 会も、中心人物の逝去後、組織運営の継続性に課題を抱えている。
- ・ **提案:** プールサイドに設置されていたシェード(日除け)が来年の大規模改修により撤去されたため、再設置を要請。このシェードは水温を 3°C 下げる効果があり、生徒の活動環境改善に不可欠であることから、泉陽会による支援を希望。

卓球部 國澤氏

- **現状:** コロナウイルス感染症拡大前に一度 OB 会を開催したが、それ以降は活動が途絶えている。
- **課題:** 現役部員との接点がなく、活動状況を把握できていない。また、OB 会内部でも世代間の繋がりが希薄になっている。
- **目的:** 國澤氏自身が 75 歳となり、次世代への継承が急務であると強調。他クラブの成功事例を参考に、OB 会の活性化を目指したい。

バスケットボール部 壱井氏

- **現状:** 20 年前に OB 会を再建後、極めて活発に活動。毎年開催する OB/OG 会は、OB/OG 75 名、子ども 25 名、現役男子 25 名、現役女子 15 名、総勢 140～150 名が集まる大規模イベントとなっている。
- **成功要因:**
 - **組織運営:** 事務局の役割(会計、広報、ホームページ担当など)が明確に分担され、効率的に運営。
 - **連絡網:** 各年代のキャプテンをハブとした LINE グループを構築し、迅速かつ網羅的な情報伝達を実現。
 - **現役との連携:** 現役生徒が在学中に 2 回 OB 会を経験する仕組みにより、卒業後も自然に参加できる文化を醸成。
 - **資金運営:** 固定の会費制は採用せず、参加費(500 円)と寄付金で運営。現役時代に支援を受けた OB/OG が「恩返し」として寄付を行う文化が定着。
 - **現役支援:** 毎年、現役チームに 5 万円の支援金を贈呈。加えて、フリースローラインのイベント景品(図書券、Tシャツ)や、参加する子ども達のためのお菓子・おもちゃも用意。
 - **情報発信:** 公式ホームページを開設し、活動内容を写真と共に報告。オールド OB 懇親会では「飲食費プラス 1,000 円」を参加者から集め、OB 会への寄付金としている。

茶道部 赤穂氏・辻村氏

- **現状:** 特定の期(18 期・19 期)では約 30 年間同窓会を継続している。1 回目のクラブ交流会には卒業したての 2 名が出席して茶道部は継続していることを知った。

- ・ **課題:** 他の学年との繋がりが薄く、クラブの存続も不明であったが、本交流会で確認できた。文化部特有の組織的な結びつきの難しさを感じている。
- ・ **補足:** 泉陽高校には質の高い茶道具一式が揃っているという歴史的背景があり、クラブの継続を願う声が上がった。

バレーボール部 安保氏・辻村氏

- ・ **現状:** OB 会「木連会」が存在。コロナ禍で活動が停滞していたが、本年度より再建に着手。メールでの連絡網には約 100 名(男女)が登録。
- ・ **顧問:** 2 名いらっしゃるが経験者で非常に協力的。
- ・ **活動:** 伝統ある三国丘高校との定期戦を再開。本年度、現役チームが近畿大会に出場した際、会場(舞洲)までの交通費負担を軽減するため緊急の寄付を募り、現役へ 10 万円の支援金を拠出した。
- ・ **運営:** 連絡手段を従来の葉書からメールへ移行。会費(2,000 円)と寄付金を主な財源として運営している。

サッカーチーム 小嶋氏

- ・ **現状:** OB 会として、現役への援助金贈呈、川淵カップ、初蹴りといった年間行事が定着。三国丘高校との定期戦「川淵カップ」は、Jリーグ初代チェアマンで三国丘高校 OB の川淵三郎氏に因んで名付けられた。
- ・ **課題:** 連絡手段を従来の郵送から、LINE 連絡網やホームページへと移行中。
- ・ **運営:** 会費制(学生 1,000 円、社会人 5,000 円)と寄付金の組み合わせで運営。

ソフトボール部 和田氏

- ・ **現状:** 府立女学校時代は強豪として名を馳せたが、現在、OB 会の組織的な活動は途絶えている。報告者の和田氏は昭和 7 年生まれの 93 歳(1951 年卒)であり、歴史の継承が課題。

語学部 佐々木氏

- ・ **現状:** クラブ自体は 50 年前に活動を終了。本交流会がきっかけとなり、55 年ぶりに同窓会を開催し、22 名が参加した。
- ・ **運営:** 連絡手段のデジタル化と名簿更新を実施。その過程で逝去された会員のご遺族に悔やみ状を送ったところ、「亡き父の高校時代を思い出させてくれて嬉しい」との返信があり、OB 会活動の意義を再確認した。

各クラブからの多様な状況報告は、OB 会運営における資金確保、連絡網の維持、後継者育成といった共通の課題を浮き彫りにし、続く議題討議の重要な土台となりました。

4. 議題討議

各クラブの報告を受けて行われた質疑応答と自由討議の中から、特に重要な 3 つのテーマが浮かび上がりました。それぞれのテーマについて活発な意見交換が行われ、具体的な課題と解決策の方向性が共有されました。

4.1. OB/OG 会の会費徴収と運営資金について

- **電子決済の活用:** PayPay 利用に関する質疑がなされた。泉陽会本体では名簿管理業者のサラト株式会社を介して導入しているが、各 OB 会が直接導入する場合、法人契約の手数料や個人口座利用時の管理・会計処理の煩雑さなど、多くの課題があることが話されました。
- **会費制 vs. 寄付制:** 討議を通じ、二つのモデルの特性が明確になった。バレーボール部やサッカーボール部が採用する「会費制」は安定財源を確保しやすい一方、バスケットボール部が実践する「寄付制」は参加への心理的ハードルを下げ、現役時代に受けた恩を返す「恩返し」の文化を醸成しやすいという、それぞれの利点と実情が共有されました。

4.2. 会員への連絡と情報発信の方法について

- **デジタル化への移行:** 多くのクラブが、郵送コストの増大と事務作業の効率化という観点から、連絡手段を従来の郵送から LINE やメールへと移行している現状が共有された。
- **情報発信の媒体:** バスケットボール部の公式ホームページの成功事例が紹介される一方、その開設・維持には専任担当者の継続的な努力が不可欠であるという実践的な注意点も挙げられた。
- **泉陽会からの支援提案:** 司会の川端より、各クラブの情報発信を支援するため、泉陽会公式ホームページとのリンク設定や、各クラブの活動報告を掲載するページの提供が可能である旨が提案された。

4.3. OB/OG 会の活性化と後継者問題について

- **公立高校の課題:** 木村顧問より、教員の転勤がクラブ活動の継続性や OB 会との連携に大きな影響を与えるという、公立高校特有の構造的課題が指摘された。
- **リーダーシップの重要性:** OB 会を維持・発展させるためには、中心となる人物の熱意とリーダーシップ、そしてその活動を未来へ繋ぐ後継者の育成が不可欠であることが、共通認識として持つ必要を強調された。
- **後継者育成の具体的策:** バスケットボール部が、次世代の事務局を担う候補者に対し、OB 会開催のたびに継続的に声をかけ、将来の参加を促しているという具体的な事例が紹介された。

これらの討議を通じて明確になった課題を踏まえ、本交流会が今後果たすべき役割と、その具体的なあり方に関する議論へと展開しました。

5. クラブ交流会の今後の方向性

これまでの議論を集約し、本会の持続的な発展と成果の最大化に向けて、司会の川端より今後の方向性に関する具体的な提案がなされました。

- **各クラブと泉陽会の連携強化** 各クラブから幹事(2名程度)を選出し、泉陽会の運営にオブザーバー等の形で参加してもらうことで、恒常的な情報交換と相互協力が可能な体制を構築するという構想が提案された。これにより、クラブ間の連携だけでなく、泉陽会本体と各 OB 会との繋がりを強化することを目指す。
- **参加形式の多様化** 遠隔地に在住する OB/OG も参加しやすい環境を整備するため、将来的にはリモート(音声会議システム)での参加も可能にする方向で準備を進めていることが共有された。これにより、地理的な制約を超えてより多くの意見を集約できる場となることが期待される。

6. 連絡事項

泉陽会事務局より、以下の連絡事項が共有された。

- **泉陽会総会の開催時期変更:** 会計年度と事業年度を一致させるため、次年度以降、総会の開催時期を従来の 4 月第 1 日曜日から 6 月の第 1 日曜日に変更されました。2026 年 6 月 7 日(日)10 時～12 時、その後懇親会を予定。

- **泉陽会忘年会の案内:** 12月6日(土)に開催予定の泉陽会忘年会について、本交流会参加者の希望があれば参加可能です。(申込締切:11月27日)
- **会員情報の更新依頼:** 転居等により住所に変更があった会員は、速やかに泉陽会ホームページの変更届フォームから手続きを行っていただくよう、協力依頼を行いました。

7. 閉会

司会による閉会の辞をもって、全ての議事を終了し、第3回クラブ交流会は盛会のうちに閉会した。

以上